

平成 27 年度 五泉市算数部 活動報告

部長 市島 直子

1 研究主題

子どもが分かる・できるための指導法の工夫

2 研究の概要

次の3つを通して授業力の向上を図った。

- (1) 算数の授業力向上のための講演会を開催
- (2) 指導案検討
- (3) 研究授業と協議会

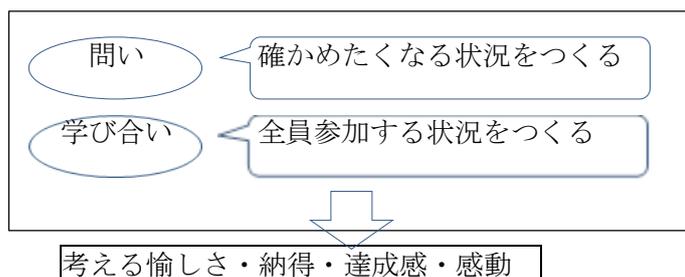


3 研究の実際

- (1) 講話 平成27年6月24日(水)

「算数の授業づくりについて」 田上町立田上小学校 教頭 平山 誠 様

- 授業は、教師の教材観、指導観がそのまま現れる。
→ 時代と共に教師に求められる指導技術は変化する。常に教師は、スキルアップが必要。問題意識をもって授業改善を。
- 授業の7割を決めるのが「課題」の善し悪し。「学習課題」は、本時に子どもに乗り越えさせたい壁(問い)である。
- 知識や技能を学級の全ての子どもたちに獲得させるために



教科書の問題も提示の仕方を工夫すれば良い課題となる。

- (2) 研究授業 平成27年10月14日(水)
授業公開 2年 算数「たし算 ひき算」
授業者 久保田 理美子教諭(橋田小学校)
指導者 五泉市教育委員会 清水 正明 様
※ 約1か月前(平成27年9月9日)に事前検討会を実施

2年生でテープ図が初めて出てくる単元であり、今まで分離量として捉えていたものを連続量として捉えるという思考の変換が必要になる。児童にとってつまずきやすい単元であった。授業者はこれらを踏まえ、3つのテープ図を提示して問題文に合う適切なテープ図を選択させたり、ホワイトボードをペアに一つずつ渡し、自分の考えを相手に話すことで理解を深めさせたりして、指導法の工夫を行った。協議会では、テープ図の扱いが話題の中心となった。



4 成果と課題

平山教頭先生からは、子どもたちの「ワクワク」「ドキドキ」「おもしろい」を大切に授業改善していくことがキーワードであると助言をいただいた。学習のねらいを達成するための問題解決過程の中で、子どもたちのかかわりや言語活動が大切であることを学ぶことができた。

研究授業検討会、授業後の協議会を通して、テープ図をどのように教えるかという教師の教材研究の必要性、また、実際の授業を進めるうえで児童の考えをどのように関わらせ、つなげていくかという指導技術について、研修を深めることができた。